reset-N ver.11.0

黎明

夏井孝裕

時　現代

場所　都内

登場人物

タテイシ

リツコ（タテイシの妻）

カワモト（タテイシの友人）

アソウ（漫画家）

サワダ（編集者）

カンダ（アソウのファンの女）

Y

scene 0.0

四角い島のような舞台。
下手奥の隅に、壁に向かった机がある。
上手奥には観葉植物。

scene 0.1

あかりがつく。
やわらかな音楽。
例えば "Praise" by David Sylvian

向かい合っている男女がいる。リツコとタテイシである。
机にカワモト。小説を書いている

リツコ、タテイシにさわろうとする
タテイシ、リツコの腕をとる
自分の腕時計を外してリツコの腕時計と絡め、
手首を拘束していく

タテイシ、リツコにキスをする。

タテイシ、部屋を出ていく。

音楽消える

scene 1.0　　カワモトの部屋

カワモト　小説。

リツコ　え？

カワモト　小説、です

リツコ　小説？

カワモト　うん、書いてるんだけどね

リツコ　カワモトくんが？

カワモト　うん

リツコ　すごい

カワモト　え

リツコ　すごいじゃない

カワモト　すごくないよ

リツコ　そうかな

カワモト　ただ書いてるだけだから

リツコ　そうか

間

リツコ　別にすごくないね

カワモト　……

リツコ　応募とかしないんですか

カワモト　全然ダメなんですよ

リツコ　ダメって

カワモト　行き詰まっちゃって…。

間

リツコ　…大丈夫です

カワモト　どうして

リツコ　…。どうして行き詰まってるの

カワモト　何か動機みたいなのがない感じなんですよ、書きたいっていうこととか、書くきっかけとか、そういうの

リツコ　だったら、無理に書くことないんじゃない

カワモト　…わかってるんだけどね

リツコ　……。

カワモト　書ける気がしてるんだな…

リツコ　……。

カワモト　でももう一つ何か、運命的っていうとあれだけどちょっとしたことがさ、手掛かりっていうかそういうことになるような気がするんです…。あるいは、この人のために書きたいっていう人が誰かいてくれるとか…。

リツコ　あたしのために書いてくださいよ…

カワモト　……

リツコ　捨てられつつある女のために

カワモト　まだ、決まったわけじゃないでしょう

リツコ　どうしてあの人こないのかな

カワモト　うん…

リツコ　あたしはいいけど、悪いよね

カワモト　俺に？

リツコ　折角いてくれるのに

カワモト　いいよ俺は

リツコ　友情の悪用だと思うんだ

カワモト　悪用は言い過ぎだよ

リツコ　でもあたしに話があるならうちですればいいわけでしょ？　何もカワモトくんちに…

カワモト　あいだに入ろうかっていったの俺だから

リツコ　そうだけど…

カワモト　気にしないで

リツコ　それで遅れるのって、たぶん自分が着く前にあなたがあたしを説得してくれるのを期待してると思うんです

カワモト　…単に、遅れてるだけですよ

リツコ　優しいですね

間

リツコ　そんな、いやな顔しないで下さいよ

カワモト　優しいっていわれるの、好きじゃなくて

リツコ　なんていわれるのが好き？

カワモト　……バカ

リツコ　バカ

カワモト　……

リツコ　……バカ

カワモト　……

リツコ　嬉しいですか

カワモト　ちょっとね

リツコ　これから全部の語尾にバカをつけましょうかバカ。

カワモト　いや、いい

リツコ　いいんだ

カワモト　ほどほどがね

リツコ　ふん。…小説は？

カワモト　あ、

リツコ　どんなのを書いてるの？

カワモト　どう書くかは決まってるんだけど、何を書いたらいいのかわからない

リツコ　いつか書けますよ

カワモト　何でそんなこといえんの…

リツコ　…いえるから

カワモト　……

リツコ　書けるっていうことがわかるよ、あたしには。カワモトくんももうすぐわかる。書きたいことも、わかるような気がする…。どんな小説なの…？

カワモト　……書きたいのは、なんていうか…

リツコ　…。

カワモト　生きているけど生きていないっていうことと…違うな、ここにいるけどここにいないっていう感覚と…呼吸が……わかってる、具体的なことを話すと……

…男がいるんだ、でも俺じゃなくて、現代…どこかの街…。

うっすらと蜃気楼のような音楽
例えば"BANTEAY SLEY" by Carl Stone

カワモト　ほしいものはささやかなものだけどそれは簡単に手に入るかわりに彼をどんどん蝕んでしまう。それで周りの大事な人たちが次々に、放射能を浴びるみたいに傷ついていく。夜が来て、雨が降って、朝になるとだれもいなくなる…自分もいなくなるしかないことを知っている。消える前に彼は呼吸をするんだ…古びてほこりっぽい、あたたかな空気を吸って、自分の匂いのする空気をゆっくりと吐き出す。そして消えるために立ちあがる…不幸でも幸福でもない顔で静かにドアに近づく。でもまだ話したい相手がいる…聞きたい言葉がなにかある。彼は受話器を取り上げ、番号を一つも押さないまま、たった一人の話し相手を手に入れる、もしもし…もしもし…。

リツコ　…もしもし…

カワモト　たしかに返事がする、単調に鳴り続ける発信音の向こうから彼に呼びかける声が聞こえてくる。彼は必死に次の言葉を探す、探す、でも受話器のこちら側にあるのはもうそこにはいない自分の、言葉をなくしたカラダだけだ、彼は目をつぶって待つ。相手が何かをいってくれるのを待つことしかできない。そして彼の耳に声が響いてくる…何もいわないのね

リツコ　何もいわないのね

カワモト　あたしはあなたのこと知っているわ

リツコ　あたしはあなたのこと知っているわ

カワモト　男にはもう言葉が出てこない

リツコ　何もいってくれないの？　ずっと待ってたのに

カワモト　男は不安に襲われる、彼女が消えるというありえない不安を彼は抑えることができない

リツコ　大丈夫よ、あなたがそこにいるだけなんだから

カワモト　男はそれを聞いて子供のように泣きたくなる、そしてかすれた声でいう、そうだね…

リツコ　でもこの受話器は、あなたが置くしかないのよ…。あなたがとったんですもの

カワモト　わかってる、と彼は思う。わかってる

リツコ　問題は何？

カワモト　言葉が…ない

リツコ　……

カワモト　言葉が、ない。それきり彼女からの返事もない。彼は発信音だけが響く受話器を置くことができない。もうどこからも消えることができない。時間が流れているのか止まっているのか誰もわからない。ただ、一つの小説が…終わるんだ…。

音楽、すでに消えている
カワモト、リツコの反応が気にかかる。

リツコ　…え？

カワモト　なに？

リツコ　なにって…。

カワモト　どうかな。

リツコ　だから…

カワモト　……。

リツコ　ごめん、途中から聞いてなかった…。

カワモト、茫然とする

リツコ　…なにか別のこと考えちゃって、でも、いい気がする…！　うん。ぐーじゃない？

カワモト、立ち直れない

リツコ　うー、ほら、説明とかよりも、実際読んでみるほうが絶対いいよ

カワモト　そうですよね

リツコ　できたらぜったい読みますよ（笑う）

カワモト　（笑わない）…そのことなんだけどん？

リツコ　今、読んでくれない。

カワモト　え…、ああ、なに、できてるんだ

リツコ　途中まで。大した量じゃないです。読んでくれます…？

カワモト　……あの人のかわりですか…？

リツコ　え、

カワモト　あたしに読んでほしいんですか、誰かに読んでほしいんですか…。

リツコ　……え？

カワモト　…読みますよ。あたしでよければ。

リツコ　…読んでください（紙束をとりだす）

カワモト　あの人いつ来るんだろう…。

リツコ　…あと、３０分ぐらいです…。

カワモト　何で…？

リツコ　そういう話だったんです、本当は。俺があなたに1時間早い時間を教えたんです。

カワモト　……なんですかそれ

リツコ　悪いとは思ってる

カワモト　悪いとはって、

リツコ　ごめん。

カワモト　……それで、あの人が来るまでわたしがあなたの小説読むわけ…？

リツコ　いやならそれはいい…。

カワモト　気、くるってない…？

リツコ　…そうですね、たぶん気がくるってるんだ…

カワモト　何か飲みものある…？

カワモト　ないな…。買ってこようか…。

リツコ　いい…。じゃあ、読むよ

リツコ、手を差し出す

カワモト、紙束を渡す

リツコ　読んで、どうすればいいの？

カワモト　読めばあいつが来ます

浮遊感のある音楽。
例えば "isn't this the life" by ramshackle

カワモト、出ていく

リツコ、読む

リツコ　「傷は…。傷は小さなものだそうです。夏がくる頃にはもう誰にも見つけることができなくなるでしょう、そうお医者さんにいわれたことを話すと不機嫌そうに口の端を歪めて包帯から目をそらしました。怒ったなら手で殴りなさいよ、ものを投げるなんて最低。わざとじゃなくてもね。かれは黙って紅茶のカップに手を伸ばします。
　窓、あけないの、イヌがいてうるさいんだ、かれはやっと口を開きました。でもあけましょう。ロックを外してガラス窓を開けると夕方の空に薄い月が浮かんでいます。風の涼しさに目を細めながら、イヌは寝てるみたいよ、そういってふり向くとかれはもうそこにはいなくて、ティーカップから立ちのぼる白い湯気が静かにゆれているだけでした。そのあと」

音楽高鳴る
リツコ、黙って読み続ける

scene 2.0　　アソウの部屋

サワダ、倒れている
アソウ、見下ろしている
片手に枕、片手に今描いたらしいマンガの原稿

アソウ　サワダさん…
サワダ　あ
アソウ　できました。
サワダ　あ、どうも
アソウ　そんなとこで寝ないでくださいよ（原稿を渡す）
サワダ　すいません、もうすっかり意識なかったです
アソウ　嫌味かそれは
サワダ　いや、そんなそんな

サワダ、原稿に目を通す

サワダ　はい、では頂いていきます
アソウ　いいですか
サワダ　はい
アソウ　アタマ動いてますか
サワダ　大丈夫です（鞄にしまう）
アソウ　なくさないでくださいよ
サワダ　はい
アソウ　で。
サワダ　？
アソウ　それで。何か話あるんじゃなかったでしたっけ。
サワダ　はい、
アソウ　あたしそれきいたら寝ます
サワダ　はい
アソウ　どうぞ
サワダ　……アソウ先生は、いま誰か、避けている人がいたりしますか
アソウ　避けている人
サワダ　ええ
アソウ　無視してる人はいっぱいいる

サワダ　……

アソウ　あたしの中でいないことにしてるひとは、多い。名前ききます？　六十五人いるんですけど

サワダ　タテイシっていう人は

アソウ　いない

サワダ　え、もうすでにいないことに

アソウ　そうじゃなくてはじめからしらない。誰？

サワダ　わかんないんですよ…

アソウ　……

サワダ　じゃ、私これで。

アソウ　え…？

サワダ　え？

アソウ　説明は…？

サワダ　いや、心当たりがなければ、もう

アソウ　またへんな人いたんですか…

サワダ　……

サワダ、鞄から手紙の束を出し、アソウに渡す

サワダ　読んでみてください

アソウ　「君は命令に背いた」

サワダ　それ、全部同じです

アソウ　「君は命令に背いた」

アソウ、しばらく手紙をめくり、壁に投げる

アソウ　何でこんなの持ってくんの…

サワダ　知り合いかと思ったんです

アソウ　バカじゃないの…

サワダ　……

アソウ　いないことにする人、一人追加だ。

サワダ　手紙だけじゃないんですよ…

アソウ　え、

サワダ　昨日、こんなものがですね、

アソウ　いい、見たくない

アソウ、サワダの封筒を押し戻そうとする
はずみで中身が落ちる。黒い首輪である

アソウ　サワダさーん…

サワダ　首輪…

アソウ　面白いですか

サワダ　……

アソウ　サワダさんに嫌がらせされてるのと同じです、あたしにとっては。

サワダ　……

アソウ　たくさんの人があたしのことを考えてる苦しさって、わかりますか…。みんな勝手にあたしのこと想像して…、何にも知らないのに、ただあたしの描いた漫画好きってだけであたしと関係持とうとして…。でもあたしはね、手紙読んでちゃんと返事書いてる。仕事だから。できない量じゃないし、なるべく返事書いてくださいっていわれたからですよ。だから、サワダさんもちゃんとしてほしい。見たくないものを目の前にもってくるようなことはやめてほしいんです…。

サワダ　すみません

アソウ　普通のファンレターも、やっぱり本当はきついんです…。悪口みたいなのをカットして貰ってても、やっぱりきついんですよ…。電話してもいいですか…。お返事まだですか…。漫画家になるにはどうしたらいいですか…。アシスタントになりたいんです…。好きな人いるんですか…。本当は男なんじゃないんですか…。サイン送って下さい…。私が考えたキャラクター出してください…。好きな人がいるんです…。父親が暴力を振るうんです…。

サワダ　上京して編集部に来ちゃった人がいましたよ…。自分で描いた漫画をアソウ先生に読んで欲しいって…。（何か封筒を取り出す）

アソウ　死んじゃえばいいのに…

間

アソウ　まさかそれも持ってきたんじゃないですよね

サワダ　（封筒を隠す）まさか

アソウ　そういう話自体、もうしないでください

サワダ　はい

アソウ　お願いします

サワダ　……

アソウ　後ろに何隠してるんですか

キレのいい音楽
例えば "kool ike" by spinning wheel C.I.

scene 3.0　　カワモトの部屋

リツコ　ねえ、それで？
カワモト　なに？
リツコ　これからどうなるの？
カワモト　……
リツコ　何も考えてないわけ？
カワモト　んー、まだ決められないですね
リツコ　何いってんの
カワモト　この雰囲気でずっと引っ張るのは絶対ヤなんです、かといって
リツコ　そうじゃないんだ
カワモト　……？
リツコ　あの人来るよね
カワモト　ああ
リツコ　そしたらどうなるのかしら。あの人、あたしに何をいうの？
カワモト　俺にきかれても
リツコ　……うん
カワモト　小説の感想って言わないんですか
リツコ　だってまだ途中だし
カワモト　途中でもつまらないとか退屈だとかヘタだとか
リツコ　そんなに自信ないの
カワモト　ひとの感想がききたいんですよ
リツコ　きいてどうするの？
カワモト　いろいろ考え直すかもしれないし
リツコ　考え直さないでよ
カワモト　なんで
リツコ　だってひとが一生懸命やってるのにへんなこといえないもん
カワモト　いや、無責任にいってくれていいんだけど
リツコ　あたしは嫌だな
カワモト　そう？
リツコ　うん

カワモト　そうか

リツコ　最後までひとりで書いた方がいいと思う

カワモト　まあね

間

リツコ　その小説のネコの話、聞いたことあるよ

カワモト　？

リツコ　ラブホテルに棲んでるネコ

カワモト　聞いたことある？

リツコ　うん、あれもう死んだんでしょう

カワモト　……

リツコ　死んだのよ。掃除のおばさんが見つけたときはまだ生きてたらしいけど、もう血まみれで

カワモト　ほんとにいたんだ…

リツコ　え？

カワモト　そんなの初めて聞いた

リツコ　本当？

カワモト　ほんとだよ、知ってたら絶対書かない

リツコ　有名かもよ。友達からきいたんだけど雑誌とかも載ってたし

間

カワモト　死んだの？

リツコ　うん。客が床の上で押し潰したの。わざとやったみたいだって

カワモト　はー

リツコ　この小説ではどうしたかったの？

カワモト　もういい…

リツコ　どこ行くの

カワモト　ちょっと、食べるもの買ってきます

リツコ　あたし行くよ？

カワモト　いや、行って来ます

だらりとした音楽。例えば
"Anima mundi" by Andy Partridge & Harold Budd

カワモト、出かけようとする

リツコ　カワモトくん…。ネコのこと書いたのいつ…？

カワモト　…去年の夏の終わりぐらいかな…

リツコ　偶然じゃなくて、

カワモト　……

リツコ　書いたから実際起こったのかもしれないね…

カワモト去る

scene 3.1

リツコ、することがない。
部屋を歩き、植物をいじる
腰を下ろし、寝転がり、両手で顔を覆う。
深い呼吸。

scene 4.0

タテイシが静かに現れる

タテイシ　この部屋でぼくは、崩れる…

タテイシ　こわれるときは、いろいろな音がきこえる…

ボーッと壁を眺める

タテイシ　たぶん誰も来ないだろう……気づくのはとても遅い誰かだろう……雨が降る筈だ……

頭痛がするらしい。手を頭に当て、目を閉じる

タテイシ　この部屋でぼくは、楽になる…

椅子に座り、目を閉じたまま力を抜いていく

タテイシ　外から……外から……

scene 4.1

音楽高鳴る

カワモトが買い物袋を抱えて笑っている

振り返るのはリツコではなく、タテイシ

音楽消える

タテイシ　ああ、

カワモト　たべものだよん

タテイシ　え、

カワモト　どうせロクなもの喰ってないだろうと思ってさ

タテイシ　今日は喰ってるんだよ

カワモト　何を

タテイシ　寿司

カワモト　え、どうしたの

タテイシ　回転寿司いってね、奢ってもらったんだ

カワモト　だから誰に

タテイシ　うん…、前さ、紹介してくれたひと

カワモト　あ、幸田さん？

タテイシ　そうそう、一応作品送っといたのね。そしたら電話きて、会いに行ったんだ

カワモト　ふん

タテイシ　…うん、うまかったよ

カワモト　え？

タテイシ　寿司

カワモト　いや寿司じゃなくて

タテイシ　ごめんな
カワモト　……
タテイシ　結局さ、喧嘩してきちゃったよ…
カワモト　……
タテイシ　説明してくれたんだな、だいたいどんなとこか。ここはこういう世界だからって話。こういう世界なんていってたよ、あの人。自分があの世界の代表のつもりなのかな…。
カワモト　え、
タテイシ　世界っていう言葉の使い方に、違和感を感じるんだ
カワモト　それで喧嘩したのか
タテイシ　違うよ、そこまでコドモじゃないよ。それはいいんだ。ニコニコきいてた。でもさ、ここはこういう世界だからなんていうの、どう思う？
カワモト　何が不満なの
タテイシ　世界ってどういう意味で使う？
カワモト　…何か、こういう、
タテイシ　え？
カワモト　世界は、世界としかいえないかな…
タテイシ　な。
カワモト　え？
タテイシ　自分のしらないことも含めた全部が、世界なんだよ…
カワモト　……？
タテイシ　うん
カワモト　ごめん、もう一回説明して
タテイシ　だからさ、自分のしってること並べて「こういう世界だよ」っていうのはおかしいだろ
カワモト　おかしいか
タテイシ　おかしい
カワモト　でもよくいうじゃない。政治の世界とか、ゴッホの世界とか
タテイシ　…多分、スタンスによるんだよ
カワモト　スタンス。
タテイシ　ハタから見て、うわ。凄い。何だこれは。よくわからん。どうなってるんだ、ゴッホの世界。っていうんだったら俺はいいのね。

カワモト　いいんだ

タテイシ　いい。でもゴッホが自分で「これが私の世界です」っていったらどうだよ

カワモト　いうか、ゴッホが。

タテイシ　いうんだよ。「私の世界へようこそ」とか

カワモト　いわないよ

タテイシ　いったらバカみたいだろ

カワモト　…まあ

タテイシ　そういうことだよ…。

間

タテイシ　何度でも説明するぞ

カワモト　いや、いいよ。よくわかんないから

タテイシ　緊張感持ちたいじゃない

カワモト　ん？

タテイシ　世界は自分の後ろにあるわけじゃないし、自分の手のひらにも乗らないだろ。乗ったらそれは世界じゃない。自分が全く想像したことないような、時間とか空間とか、宿命とか記憶とかできごととか、全然しらない人たち一人一人の生活とか、自分がここにいるってことを何とも思わない誰かのこととか、泣いている子供とか…、そういうもの全部が世界で、世界としかいいようのないもので、それを目の前にしているから表現ってものが成立するんだろ。カワモトは、書くわけだろ

カワモト　表現なんてもんじゃないよ。頼まれた分だけ取材して字にしてるだけだ

タテイシ　小説は

カワモト　小説か

タテイシ　書けよ

カワモト　そんな簡単にいうな

タテイシ　書けるだろ、書いてくれよ

カワモト　……幸田さんとは、何で喧嘩したの

タテイシ　ああ…。で、君はどういう希望を持ってるのっていうから、いつか雑誌創りたいって話をしたわけさ。こんな雑誌創りたいって話。

カワモト　あれね

タテイシ　うん。でもほとんど話さないうちからなんか、怒っちゃってさ

カワモト　怒った？

タテイシ　甘えるんじゃないとかいってタバコぶるぶるさせてんだ。何も変なこといってないんだよ。俺はもうめんどくさいから幸田さん、お会いできて嬉しかったですサヨナラってお金置いて帰ろうと思ったんだけどないんだよねお金が。参

ったよ

カワモト　どうした

タテイシ　思わず、ご馳走さまとかいって帰って来ちゃった（笑う）

かすかに静かなうた
例えば"SUNNY GOODGE STREET" by QUADRAPHONICS.

タテイシ　悪かった。折角紹介してもらったのに

カワモト　…いいよ。いずれは喧嘩になる組み合わせだと思ってた

タテイシ　そうか…

カワモト　全然気にしなくていい

タテイシ、ちょっと頭を下げる

カワモト　これからまた大変だな

タテイシ　まあな。でもおかげで思い出した。仕事なんて俺、なんでもいいんだな。スッキリした。コピーのコピーで人を騙すくらいなら、マシーンになったほうがいいんだよ…。

カワモト　そうかもしれない

タテイシ　川本は…、やっぱり書けよ。小説。

タテイシ、出ていく

リツコ、ぼんやりと目を覚まし、カワモトに気づく

scene 5.0　　カワモトの部屋

リツコ　遅かったね

カワモト　あ…

リツコ　なに買ってきたの？

カワモト　…オニギリと…、オニギリ

リツコ　それ全部？

カワモト　ダメかな？

リツコ　ダメっていうんじゃないけど…、中身は？

カワモト　…オカカと、…あ、全部オカカ

リツコ　どうして

カワモト　…どうしてかな…

間

カワモト　…いらない？

リツコ　いらない

カワモト　……いただきます

カワモト、食べる

カワモト　（食べながら）考えごとしててさ、適当に買っちゃったんだ

リツコ　小説のこと？

カワモト　んんん

リツコ　なに考えてたの？

カワモト　あなたのこと

リツコ　なによ

カワモト　ちょっとね

リツコ　なにかあるの？

カワモト　食べ終わってからでいい？

リツコ　いいけど…、気持ち悪いな…

カワモト、食べている

リツコ　小説はどうするの？

カワモト　小説ね…。書かなきゃいけないものかな

リツコ　ちょっと、どうしたの？

カワモト　無理に書かなくてもいいってさっきいってたでしょ
リツコ　いったけど
カワモト　あいつに読ませようと思ってたんですよ
リツコ　ふん
カワモト　でもとうとう書き上がらなかった
リツコ　今日じゃなくちゃいけないの？
カワモト　うん、今日が一番いい
リツコ　じゃ早く続き書いたら？
カワモト　今日はもういいよ、今のところまで読ませてあいつの感想きいてから考える
リツコ　ふん
カワモト　しかしこないね、あの野郎
リツコ　どうしたのかな
カワモト　気が重いのかもしれないですね
リツコ　あたしが怒っていると思ってるのかな
カワモト　……
リツコ　話があるんじゃないの？
カワモト　ああ、話ね
リツコ　なあに
カワモト　買い物に行ってる間、彼のこと思い出してたんだ
リツコ　そう
カワモト　ヘンなんだ、あなたとは今日までほとんど話したことがなかったのに、あいつよりあなたの方をよく知っているような気がする
リツコ　何それ
カワモト　あいつの話してくれない？
リツコ　使うの？
カワモト　いや、そういうわけじゃないけど
リツコ　やっぱり気になる？
カワモト　どうかな…。うん、気にしてるかも
リツコ　何ききたい？
カワモト　何でも
リツコ　何から？

カワモト　うーん、自分が結婚したことってどう思う？
リツコ　それはあの人のことじゃなくてあたしのことじゃない
カワモト　え…
リツコ　そうでしょ
カワモト　ああ
リツコ　あの人のことときくんじゃなかったの？
カワモト　そうか、じゃあ、立石ってどんな人？
リツコ　ダメなひと
カワモト　ダメなひと？
リツコ　ダメなひとね
カワモト　浮気してたから？
リツコ　んんん、それは違う問題
カワモト　ほかに何かあったの？
リツコ　何かって？
カワモト　何か、こう失望するような
リツコ　ううん、だいたいわかってた
カワモト　…なんでダメなひとなの？
リツコ　なんでダメなひとなのかな
カワモト　……
リツコ　わかる？
カワモト　いや、ちょっと
リツコ　あなたのほうがつきあい長いでしょ
カワモト　そりゃ長いけどしょっちゅう会ってたわけじゃないからな
リツコ　まあそうだけど
カワモト　通算の時間でいうとたぶんそっちのほうが長いよ
リツコ　ダメなひとだって全然思わない？
カワモト　うん、特にそう思ったことはないかな…
リツコ　あ、そう
カワモト　うん…

長い間

カワモト　ねえ、どうして一緒になったの…？

リツコ　……

カワモト　いや、別に別れたらっていうことじゃなくて…

リツコ　うん、わかってる

リツコ、立ち上がる

リツコ　あの人ってね、変態なの。だからやってけるわけ

カワモト　やってけるって

リツコ　あたしも変態なんだ。お手洗いどこ？

カワモト　そこ出てすぐ左のドア…。

リツコ　どうも

リツコ、出ていく

カワモト　え…。

リツコ、すぐ戻ってくる
静かな加速感のある音楽。
例えば"I Surrender" by David Sylvian

リツコ　関係ないけど、今あの人がどうしてるか、わかった

カワモト　えっ

リツコ　何となくだけどね。誰か女の人来てるんだよ…。だからまだ時間がかかる…。

カワモト　そうなのかな

リツコ　何にも根拠ないんだけどね。きっとそうだよ。

カワモト　……

リツコ　何でそんなの待っちゃうのかね…

scene 6.0　　アソウの部屋

サワダ、土下座している

アソウ　あの、やめて下さいよ…。

サワダ　……

アソウ　そんなことしなくていいですから、説明して下さい

サワダ　…あの子に、会ってやってほしいんですよ…

アソウ　だから何で。

サワダ　……

アソウ　黙ってたらわかんないんですけど…

サワダ　……

アソウ　ハッキリしろバカ！

サワダ　あの子に会うことは、麻生さんにとっていいことだと思うんです…

アソウ　よくわかりません

サワダ　わかってください

アソウ　……あたしもそういう手使おうかな

サワダ　……

アソウ　へんなストーリーになっちゃったときにさ、最後のページにでっかく「わかってください」って書くの。毎回それでいこう。ぐちゃぐちゃの話を書いて、ラストで「わかってください」。人気投票凄いよね。どう凄いんだかわかんないけど。

サワダ　……

アソウ　それと一緒です、「わかってください」とか、「ご理解を頂きたい」とか、そういうの。

サワダ　すいません…

アソウ　沢田さんがそういう人だとは思わなかったな…。そんな顔しないでよう…

サワダ　……

アソウ　沢田さんがそんな顔するんだったらね、あたしは、こんな顔だ…（へんな顔をする）

サワダ　……

アソウ　それともこんな顔だ…！（へんな顔をする）

サワダ　……

アソウ　とめて下さいよ

サワダ　すいません

アソウ　たいへんなんですから
サワダ　はあ、
アソウ　沢田さんも、それやめましょうよ…。話しにくい
サワダ　……
アソウ　（突然に）沢田さーん！
サワダ　え、
アソウ　本当に、もう、どうしちゃったんですか…？
サワダ　うまく説明できないんです
アソウ　それもありなんですかね、ぐちゃぐちゃの話書いて最後のページにちっちゃい字で、「うまく説明できないんです」って…
サワダ　……
アソウ　膝、崩して下さいよ…

サワダ、やっと膝を崩す

アソウ　三択、だと思うんですね。沢田さんが諦めるか、その子に会う意味をわかるように説明してくれるか、或いは　…
サワダ　……
アソウ　沢田さんが何か別のメリットを用意してくれるかですよ…。
サワダ　…どんなことですか
アソウ　さあ、何ができるんですか。あたしがよろこぶようなこと
サワダ　いってください、僕にできるようなことなら
アソウ　バカな人ころしてほしい。会う代わりに、会った人ころしてほしい。それなら会える。握手でも何でもしてあげられる。ああこの子死ぬんだーって思えばね、優しくできるな…
サワダ　……
アソウ　そこまでしなくてもいいか。殴るにまけよう。沢田さん殴る。しかもグーで。
サワダ　……
アソウ　沢田さんは嘘ついてる。あたしのことを考えてるフリしてるけどその子のことしか考えてない。どうかしてる。その子のこともちゃんとは考えてない。沢田さんが考えてるのは…、考えてるのは…、何？
サワダ　わかっていただけるかどうか…
アソウ　いいから話して。
サワダ　……リアリティーの問題なんです…
アソウ　ん。

サワダ　あの子は…、素顔の麻生先生を見た方がいいし、麻生先生はあの子をみたほうがいいような気が（するんです…）

アソウ　素顔のあたしって何。

おだやかな音楽、かすかに
例えば"For Tomorrow(Out-Of-Phase Mix)" by Nobukazu Takemura

サワダ　…いま僕と話しているような、

アソウ　これは素顔なの…？

サワダ　え…

アソウ　あなたは今誰と話しているの…。感じる？リアリティー。

サワダ　…だって、リアルでしょう…

アソウ　そう思うんだ…

サワダ　え？　僕はいま、麻生先生と会って、麻生先生と話しています。それがリアルじゃないんですか…

アソウ　沢田さんはこのあたしをリアルだと思ってる。でもそう思わない人もいる

サワダ　ええ、そうだと思います。だから僕は

アソウ　あたしも、あたしがリアルじゃないと思う。そこが問題。

サワダ　…からかってるんですか…

アソウ　いいえ。沢田さんのこと好きですから。

サワダ　やっぱり、からかってますよ

アソウ　からかってません。沢田さんのことが好きです。

サワダ　…帰ります。

アソウ　今のあたしにはリアリティー、ないですか…？　沢田さんはどういうあたしがあたしだと思ってるんですか…。

サワダ　……

アソウ　リアルと向き合ってないのは沢田さんです。あたしはそう思います。泊まっていきませんか…。

サワダ　今日は、失礼させてください

アソウ　今日しかないとしたら

サワダ　それでも、同じです…

アソウ　どこに行くんですか…

サワダ　あの、女の子のところにです…。

アソウ　……沢田さん、どうかしてます。

サワダ　でも行かなくちゃ行けないんです

アソウ　行ってらっしゃい

サワダ　行って来ます

サワダ、出ていく

アソウ、天井を見つめる

scene 7.0　　タテイシの部屋

タテイシ、でかけようとすると目の前に立っている少女がいる
カンダである

タテイシ　……

カンダ　……

タテイシ　なに

カンダ　ちょっと、いいですか…

タテイシ　…でかけるとこだから

カンダ　ちょっとでいいんです…タテイシクニヒロさんですよ　　ね…

タテイシ　そうだけど

カンダ、部屋に入り、ドアを閉め、プラスチック
バットをタテイシの脳天に振り下ろす

カンダ　痛いですか…

タテイシ　うん…

カンダ、再びバットを振り下ろす
タテイシ、真剣白刃取りをやろうとして失敗する

カンダ　痛いですか…

タテイシ　うん…

カンダ　用事はこれじゃないんです

タテイシ　え…

カンダ　やめてほしいんですよ

タテイシ　何を…

カンダ　やめてほしいんです。痛いでしょう。叩かれると痛いですよね。痛いんです
よ叩かれると。でも叩かれて痛みを感じたときに目の前に叩いた人がいるなら、
自分に痛みを与えた人が目の前にいて自分の痛みを知ってくれるなら、痛いっ
ていえるんです。叩かれて痛いって。痛いですよね

タテイシ　うん

カンダ　痛いんですよ叩かれると

タテイシ　あんた誰だよ

カンダ　……

カンダ、バットを振りあげる

タテイシ　待て

カンダ　あなたは！

タテイシ　うん
カンダ　私をしらないんです…
タテイシ　しらない
カンダ　何にもしらないんです！
タテイシ　ごめん、悪かった
カンダ　何がですか？
タテイシ　ええと
カンダ　別に知ってほしいわけじゃないんですよ！
タテイシ　何だよー。
カンダ　落ちつきましょう。落ちつきます。落ちつくといいですよ
タテイシ　お前もう帰れ
カンダ　どこに行こうとしてたんですか
タテイシ　……
カンダ　あなたは知らないんです。自分の振り下ろしたバットが誰の頭に当たっているか
タテイシ　……
カンダ　会ってみれば普通の人なのに…。あなたみたいな人がいるから…。どうするんですかあたし
タテイシ　ねえ、ちょっと冷静にさ
カンダ　（絶叫）あたしは冷静です！
タテイシ　そうだね！
カンダ　麻生先生のところへ、行こうとしてるんでしょう…
タテイシ　え…？
カンダ　自分が何してるかわかってるんですか…。行かないで下さい。これ以上麻生先生につきまとわないでほしいんです。異常ですよ。何が楽しいんですか。
タテイシ　違う
カンダ　何が
タテイシ　俺はその人のいる場所をしらないんだ…
カンダ　え…
タテイシ　君はしってるの…
カンダ　……
タテイシ　君は、麻生ユリカのことをしってるの…

カンダ、バットを落として、泣く

タテイシ　……友達の家に、行こうとしてただけなんだよ…

カンダ、泣いている

タテイシ　つきまとったりもしてないのね…

カンダ　でも、あんな手紙

タテイシ　うん…、手紙は出した…

カンダ　それから、あの

タテイシ　うん、あれ…。返さなくちゃと思ってさ…。どうしてしってるの…

カンダ　編集部に、行ったんです…

タテイシ　うん…

カンダ　漫画家宛の手紙って、全部開けちゃうんですよ…。どこでもそうかしりませんけど、バイトの人がチェックするんです…へんな人がいるから…。カミソリの刃いれてきたり…やめちまえとか…死ねとか…。あたしもきっと、そういう人たちと一緒に思われてるんです…へんな人がいるから…あなたみたいな人がいるから…！　いわれたんですよ…。こういうわけのわかんないやついっぱいいるんだよって…。立石さんの手紙の束、見せられたんです…。輪ゴムで括ってあって『立石シリーズ』って紙が入ってて…

タテイシ　それで、俺のところきたんだ…。でもそれって

カンダ　意味ないですよね…！

タテイシ　わかってるんだ…

カンダ　全然意味ないんですよ…

カンダ、ナイフを出す
静かなビートの曲。
例えば "You and me against the sky" by Harold Budd & Hector Zazous

タテイシ　……

カンダ　立石さん…。立石さんの手紙も、あの首輪も、あの人のところには届いてないです。一通も読んでないんですよ、麻生さんは…。あたしも一緒です。仲間でしょう。仲間…友達…！　あたしはあなたのことが理解できるんです…

タテイシ　俺の何が…

カンダ　意味なかったでしょう…。あなたも麻生先生と会おうとしてて、でも意味なかったでしょう…。会おうとしてる自分が好きだったんでしょう…。あたし気づいたんですよ…。この立石っていう人は、あたしだって…。もう終わりにしましょうよ…。あたしと一緒に、静かに消えていきましょう…

タテイシ　面白いこというね…

タテイシ、木刀をとる

カンダ　…！

タテイシ　剣道二段。
カンダ　……
タテイシ　真剣白羽取りって、できると思う…？
カンダ　……
scene 7.1　　サワダ、ドアをノックする
サワダ　立石さん…。
タテイシ　はい…？
カンダ　！
　　サワダ、入ってくる
　　カンダと目が合う
サワダ　…やっぱり来てましたか…。
カンダ　…帰れ
タテイシ　こいつ何とかしてくださいよ
サワダ　これ、どっちが悪い人なんですか…
　　カンダ、タテイシ、互いを指さす
サワダ　……（帰ろうとする）
二人　帰るな！
サワダ　だって
タテイシ　あなた誰ですか
サワダ　月刊花とトキメキ編集部の、沢田です。よくわかりませんが二人ともやめてください。
二人　……
サワダ　一応とめましたからね。じゃあそういうことで
タテイシ　サワダさん
サワダ　はい、
タテイシ　用件は。
サワダ　……
タテイシ　何しに来たのか、言ってないですよ
サワダ　……こんな状況で話さなくちゃいけないなんて
タテイシ　そういうこともあります
サワダ　はい

タテイシ　何しにきたんですか。
サワダ　…麻生先生宛に、ずいぶん手紙を出してらっしゃいましたよね…。
タテイシ　ええ
サワダ　すいません、失礼ですが読ませて貰っていましたますもので
タテイシ　変だと思いますか
サワダ　……。
タテイシ　たしかに第三者が読めば突飛な内容かもしれない。でも麻生ユリカが読めば、書いてあることはわかるんです
サワダ　……心当たりがないそうです。
音楽フェイドアウト
タテイシ　じゃあ、俺もう、死ぬしかないかな…。
タテイシ、木刀を捨てる
カンダ　……（タテイシに近づく）
サワダ　カンダさん…？
カンダ　喉を掻き切ってやります
サワダ　やめてー！
二人、思わずサワダを見た
サワダ　ダメですよ、やめましょうよ、ねえ。怪我したらどうするんですか。ああ、なにいってんだ俺。
カンダ　邪魔しないでください
サワダ　カンダさん、あなたにひどいことをしたのは僕です。その人じゃない…
カンダ　こないで
カンダ、ナイフをもった手でサワダを振り払う
サワダ　ん。
サワダ、ゆっくりとうずくまる
タテイシ　え…？
サワダ　ほら、痛い。痛いんですよ、こういうのは。だからダメなんですよ…
カンダ　……
タテイシ　救急車…
サワダ　いや、大丈夫です。ちょっとびっくりしただけなんで…。カンダさん…

カンダ　はい…

サワダ　もう一回、麻生先生が会ってくれるように、私頼んでみますから…。今日はもう、帰ってください…。ね…。

カンダ　……。

scene 7.2　カンダ、飛び出していく

タテイシ　……あの、大丈夫ですか

サワダ、体を起こして元気に

サワダ　…無傷。

タテイシ　おい

サワダ　大丈夫です。でもちょっと、ちょっと怖かった…

タテイシ　よくあんなこと

サワダ　編集者ですから。

タテイシ　ああ…

サワダ　立石さん、たぶん、立石さんが会った麻生ユリカっていう人は別人だと思います…。

タテイシ　……

サワダ　麻生さんは…、時々我が儘で甘えん坊で酒癖悪くて情緒不安定だったりしますけど、ハッキリいってだいぶ変人ですけど、基本的には誠実な、嘘をつかない人です。本名は川崎祐子といいます…

タテイシ　……

サワダ　立石さんの会っていた人のこと、きいていいですか。髪型は、

タテイシ　肩にかかるぐらいの

サワダ　違いますね。去年からずっとショートです。背丈は、小柄なほうでしたか…

タテイシ、首を振る
沈痛な空白感のある曲
例えば"JUDGEMENT DAY" by NICOLETTE.

サワダ　やっぱり、別人ですよ、それ…。誰と会ってたんです?

scene 7.3　Y、姿を見せる

タテイシ、ゆっくりと机へ。
ナイフを手にとる

サワダ、帰ろうとした足を止める

タテイシ、ナイフを置き、椅子に腰掛ける
Y、去る.
音楽フェイドアウト

scene 7.4

サワダ　大丈夫ですか…

タテイシ　ちょっと泣けてきました
サワダ　……
タテイシ　…少し前に、ゴルフ場のガチョウがニュースになってたんですが、見ました？
サワダ　いえ
タテイシ　どこかのホールで、どうもゴルフボールがなくなるっていうんで調べたら、ガチョウがボールを巣に持ってっちゃってたらしいんです
サワダ　……
タテイシ　そのガチョウは、だからゴルフボールをタマゴだと思って、ずっと温めてるんです。ゴルフボールなのに、温めていればいつか殻が割れて新しい命が生まれてくることを信じて、たぶん今も…
サワダ　知らないままのほうがよかったですか
タテイシ　いや…。あのあとずっと返事がこなかったら、僕は殺してたかもしれないですよ。会ったこともない麻生ユリカさんを…。
サワダ　……
タテイシ　よかったんです。沢田さんがきてくれて、あの女が嘘ついてたことがわかって…。沢田さん、時間は
サワダ　ああ、ではこれで
タテイシ　いや、そうじゃないんです。追い出したいわけじゃない。ビール飲みます？
サワダ　いえ、お構いなく
タテイシ　飲めないんですか？（ビールをとりにいく）
サワダ　そういうわけじゃありませんけど
タテイシ　じゃあ飲んでくださいよ（投げる）
サワダ　はあ、立石さんは…
タテイシ　あとにします。私はあなたに説明しなくちゃ。私の出会った偽の麻生ユリカのこと。首輪は、どうしました？
サワダ　ああ、持ってきました
タテイシ　どういう首輪だと思います？
サワダ　中型犬ぐらいのですよね…。イヌは飼ったことないんで（首輪を差し出す）
タテイシ　本当にそう思ってます…？
サワダ　……
タテイシ　ビール、飲んでくださいよ
サワダ　いや、だってこれ、投げましたよね…
タテイシ　……

サワダ　あとにします…

サワダ、ビールを置く

タテイシ　いい首輪でしょう

サワダ　そうですね。結構高いんですか

タテイシ　いや、安物です。高級品の首輪って知ってますか？

サワダ　いえ

タテイシ　高級品の首輪っていうのは、ヴィトンなんかのもあるんですが、こういう基本的な美しさっていうのがないんですよ。リアリティーを消す方向でデザインされてます。ファッショナブルであるぶん、拘束具としての美しさは隠されてるんです。でも首輪であることに変わりはない。

サワダ　はあ、

タテイシ　イヌは首輪っていうものとどうつきあってるんでしょうね。鎖が外れても、主人がいなくなってもずっと自分の首にはまっている首輪。どのくらい違和感があるのかな。たまに外してもらうと不安になったりするかな。交尾してるときに相手の首輪が無性に気になったりしないのかな。それで例えば、仔犬の頃に飼い主のとこから逃げ出したとしますね。で、保健所の職員にも捕まらず、山奥かどこかで生き延びたとしましょう。そしたら誰も彼の首輪を外してあげられないんですよね。何年か経つともう大変ですよ。ギューですよ。どうします？

サワダ　いやわたしにきかれても

タテイシ　話がそれたー！

サワダ　すいません

タテイシ　リアリティーの話だったんですよ

サワダ　そうですか

タテイシ　ちょっと休みましょう。頭を整理させてください。首輪って、つけたことあります？

サワダ　まさか

タテイシ　自分でしてみると、意外に違和感ないですよ。

サワダ　……

タテイシ　首輪の、リアリティー。

冷徹な響きのある曲

例えば

"it only has to happen once" by ambitions lovers.

scene 8.0　　カワモトの部屋

リツコ　リアリティーが欲しいんだってさ

カワモト　リアリティー

リツコ　そんなことはいってなかった？

カワモト　だから、ほとんど話してないんだってば

リツコ　じゃ考えて説明して？

カワモト　俺が？

リツコ　あの人がきたらあの人をかばうでしょ？　その前にあたしの力になってよ

カワモト　いや俺は別にあいつの味方する予定ないよ

リツコ　まあいいけど

カワモト　……

リツコ　あの人はリアリティーを手に入れたのかな

カワモト　……

リツコ　あたしはリアルじゃないってことでしょ

カワモト　そうかな

リツコ　あなたから見てどう？

カワモト　…現実的に見えるよ

リツコ　あなたの小説と比べたら…？

カワモト　きみの勝ちだろうな

リツコ　勝ち

カワモト　リアルっていうことでいえばさ

リツコ　あたしのほうがリアル

カワモト　うん…。ねえ、日常音と兆候音っていうの、わかる？

リツコ　んん？

カワモト　普段耳でいろいろな音を聞いてるんだけどほとんど意識の上ではカットしてるんだよね。人の声とか足音とか電話の呼び出し音とかは意味があるものとして優先的に捉えているわけ。つまり何かが起こることを知らせる兆候音だから

リツコ　ふん

カワモト　でもナーバスになると…、外国に行ったりするとさ、くだらない日常音も全部クリアに聞こえたりするわけ

リツコ　あ、わかる

カワモト　車の音とか空調の音、鳥の声…。遠くのざわめきなんかまで意識の中に入ってきてしまうのね

リツコ　うん

カワモト　でもそうなるとすごく神経に負担がかかるから、段々慣れで対応していくんだ。一つ一つ聴かなくてもいい音にしていく。そして大事な音だけ反応するようになる。何が言いたいかっていうと…、周囲のリアリティーが消えれば消えるほど、楽になるって、そういうこと

リツコ、考えている

リツコ　あたしがそういうことしってればよかったのかな…

カワモト　……

リツコ　リアリティーがないなんて言われても普通わからないよ、どうしたらいいか

カワモト　……

リツコ　目を覚ますでしょ、隣であの人が目を開けたままじっと天井向いてるのね。全然眠ってなくて。あたしを起こさないようにできるだけカラダの力抜いて横になってるの。どうしたのってきくとホッとしたような顔で布団から抜け出して「何でもないよ」ってね…。トイレに行って、戻ってくるの。だいたいもう朝ね

カワモト　よくあるの？

リツコ　うん、何回か。考えてるみたい。リアリティーとかそういうこと…

カワモト　……

リツコ　勘だけど、単に好きな人ができたっていうことじゃないな

カワモト　うん…

リツコ　あたしにリアリティーを感じないって、何よ？　あたしの言葉とか、顔とか、そういうのに意味を感じてたらもたないからカットしてるの？　そういうこと？　それで…、それで、誰ならいいの…

カワモト　……

リツコ　あたしは、あの人好きよ

カワモト　…好きですね

リツコ　でも同じくらい愛されないとあたしダメなのよ耐えられないのあなたにいってもしょうがないけど！

カワモト　そうっすね！

リツコ　不安になるのよどうしても。あの人が見つめてくれるってことが必要なの。でもあれでしょ、あの人はあたしを、見つめることに耐えられない…？

カワモト　あんまりそんな、理屈でいかないほうがいいですよ

リツコ　あの人、今日どうする気なの？

カワモト　……

リツコ　今ここにきて何かいえるのかな！　あたしのために何かできるの？　ずっと何もできなかったのに、好きだってちゃんと言えもしなかったのにあたしをどうしようっていうのかな…。会いたいなんていわれても困っちゃうよ…

リツコ、興奮がおさまらない

カワモト、オニギリをもって近づく

カワモト　はい

リツコ　なに

カワモト　オニギリ（渡す）

リツコ　……

リツコ、オニギリをしばらく見ている

ゆるやかな音楽

例えば"Millemium" by WILLIAM ORBIT

リツコ　いらない

カワモト　……（受け取らない）

リツコ　ありがとう

カワモト　……（受け取らない））

リツコ、オニギリをテーブルに置く

カワモト　食べてよ（オニギリを渡す）

リツコ　なんで（戻す）

カワモト　腹へってるんだろ（渡す）

リツコ　へってないよ（戻す）

カワモト　いいから（次のを渡す）

リツコ　何それ（思い切り床に叩きつける）

カワモト　あーっ（拾う）

リツコ　あなたが悪いんだからね

カワモト　あーっ（潰れたのを見せる）

リツコ　見せないでよ

カワモト　絶対喰え

リツコ　イヤ

リツコ、ほかのオニギリを拾い、投げようとする

カワモト　やめろ

二人、もみあう

リツコ　放して。何考えてるの

カワモト　俺、あんたのこと好きかも

リツコ、カワモトを平手で打つ

リツコ　もう何が何だかわけわかんないよ…

リツコ、泣く

カワモト、リツコを抱きかかえる

リツコ　カワモトくん、小説書け…！

カワモト　え…

リツコ　小説書け。あんなくだらない、どうでもいいのじゃなくて、あたしが幸せになる小説書け。あたしはそれ読むから…。読んで絶対その通りになるから…

タテイシ、戸口にあらわれる。

カワモトと目が合う

タテイシ　……元気か

音楽、高鳴る

scene 9.0

タテイシの部屋

タテイシ　妻を、理解できなかったんですよ…

サワダ　…はい

タテイシ　唐突ですが話はもう始まってます。一緒にいるひとを、理解できなかったんですね、どういうわけか。だんだん、わからなくなってきた。しかし彼女にとっての私は現実です。充分すぎるくらいね…。それで気づいたんです。それまで私を取り巻いていた環境の異常さと、私という人間のいびつさに、いやでもむきあわなくてはならなかった。わかりますか…

サワダ　……

タテイシ　まあ、よしましょう。問題は私の心理じゃない…。妻は…、マゾヒストです。いきなりこんな話ですみません。でもそういうところからしかこの話は始められない…。大丈夫ですか

サワダ　はい

タテイシ　…耐えられなくなってきてしまったんですね、そのうちに

サワダ　……

タテイシ　全然ダメでした。いや、そういうプレイ自体はうまくいってた。でもそれは決して私を満たさない。どんどん、どんどん、ひとりになっていく。脳だけが彼女の興奮に煽られて燃えていく。ひととおりの儀式が済んで布団にもぐるとき、やっと安らいだ気持ちになりました。そして彼女を抱いて眠るんです。夢も見ないくらい深く、静かに…

サワダ　……

タテイシ　ここは仕事場として借りてるんですが、現実には逃げ場みたいなもんなんです。眠らせてくれる部屋、泣きたくなったときに泣ける部屋です…。ここで私はひとりになり、妻のことを考えて…、そして誰かのことを考えるようになる…。麻生ユリカに会うまで…

サワダ　それは

タテイシ　ええ、ニセの麻生ユリカですね。どう呼べばいいのか　…

遠い音楽　例えば "eureka" by jim o'rouke

タテイシ　Y、にしましょうか。Yとはあるパーティーで知り合って…、時々ここに電話してくるようになりました…。スケジュールが合えばどこかで待ち合わせ、必ず彼女は遅れてきてオヒサシブリと笑い、ほとんど口もきかないで先にシャワーを浴びて私を迎え入れる…

Yがいる

タテイシ　全ては不思議な滑らかさで私は恐怖に襲われます。隣で寝息を立てている女は誰なのか、お茶をいれてくれるこの人は誰なのか、この喉をおりていく液体は何なのか　…

Y、舞台にあがってくる

タテイシ　Yはこの部屋にくるようになり、少しずつ私のことをしるようになります。Yは私の匂いを覚え、指の感触を知り、私の暗い目に慣れる。Yが帰るとこの部屋に私は一人で…、ビールを飲み、音楽を聴き、仕事をし、眠る。窓の外は

いつも夜で、眩しい灯りがある。そしてまたYが私の前で下着をとる時間がくる…

Y　ね

タテイシ　……

Y　大丈夫…

タテイシ　ああ、ちょっと考え事してた

Y　何かあたしに注文ない

タテイシ　んー、ネギトロ。

Y、ゆっくり首を振る

Y　命令してよ

タテイシ　命令ったってね

Y　あたしをイヌか何かだと思ってさ、命令してみて

タテイシ　……名前教えてよ

Y　え

タテイシ　命令。名前教えて

Y　そんなの命令じゃないでしょ

タテイシ　なんで何も教えてくれないの…

Y　……麻生。麻生ユリカ

タテイシ　いい名前だね

Y　ペンネーム。一応漫画家なの

タテイシ　そうなんだ…

Y　命令はいいの…？

タテイシ　うん…

Y、下手前へ歩き、腰掛ける

タテイシ　次の日、本屋で麻生ユリカのマンガが載っている雑誌を見つけました…。彼女のはよくある少女漫画じゃなくて微妙な…。そうか、しってますよね。私が読んだのは男の子が出てくる回です。母親に隠れてこっそりラジオを聴いているのが見つかって、どこか遠くの街を放浪する自分を思い描くっていう、あれです。次に会ったとき…、Yはこの首輪をしました。自分で買ってきたんです。首輪をつけて私に見せるために。で、喋らないんですよ。ずっと、何かイヌの真似ばっかりしてるんですね。クーンとかいって。「漫画読んだよ」っていってもフホフホとかしてるんですよ。蹴っ飛ばそうかと思いました。そしたら不意に命令してました。「あの漫画に、俺のこと描けよ」って、口から出てました。Yは、表情を止めてこっちを見ています。しばらく私とYは動きませんでした。「冗談。俺なんか出したってしょうがないよな」Yは少しだけ笑ったように見えました。そしてからだを起こして、「描くよ」って言ったんです。言いました…

Yは舞台の端に腰を下ろし、タテイシに背を向けている
静かだが激しさのある音　例えば"DEPARTURE" by o yuki conjugate.

タテイシ　あのときどうしてこういうことを言ったのか、当然何度も考えました。そして、かつての自分も似たようなことをしていたことに気が付いたんです。中学からの友達で小説を書きかけてはやめ、書きかけてはやめってやってるのがいいて…。どうしても俺はそいつに小説を書いてほしかった。誰かリアルな人物の出てくる小説を、最後まで書いてほしかったんです。その小説に俺は出てこないにせよ、出てこないほうがいいんですが誰かの…、次の瞬間には消え去ってもう二度と戻らない感情を読む者にしっかりと焼きつける小説を書いてほしかった。そういう小説なり漫画なりがあれば……俺は誰の記憶にも残らずに消えていくということに耐えられるかもしれない…つまり…

タテイシ　いま俺がこうしてこんな気持ちでいるっていう事実は誰のものにもならない。今のこの俺を描写しようっていう人はいないんだ。もちろん沢田さんが今、俺を見て、俺の話を聞いてくれてる。でも沢田さんは小説家じゃない。漫画家でも詩人でもない。音楽家ですらない。それはどういうことか。俺が、俺のことを誰かに伝えようと思ったら、それによって何かをしようと思ったら、自分でしなくちゃいけないってことだ。でもどうやって？　例えば、例えばだけど、愛されるっていう方法がある。誰かに、愛される。その人は理解してくれる。少なくとも見つめてくれるよね。問題はそこから先だ。その人が見つめてくれるのはどこまでか。わかります？　つまり…、愛する動機にはなりようがないものをどこまで見つめてくれるのか。沢田さんは、どうですか？

サワダ　え…

タテイシ　自分の中で、誰にも愛される筈のない何かってありますよね。自分の能力じゃ説明することもできないような、醜い、でもかけがえのない何かってあるじゃないですか、あるんですよ。それは、もしかしたら、誰かの記憶に刻まれていいことなんじゃないだろうか。それが自分のあいする人の目に触れてはいけないものだとしても…。困っちゃいますよね、こんなこといわれても

サワダ　いえ、そんな…

タテイシ　沢田さんがここにいることに感謝しますよ。私が画家なら、今の沢田さんの肖像を描きたいですね。それがうまくいけば、沢田さんが真剣に私と向かい合ってくれたってことが、誰か…。私以外の人を感動させることができるかもしれない。私はわからないんですね。あなたがどんな気持ちできいてくれたのか。今どんな気持ちなのか。そして私は、あなたがここでどうやって私の話を聞いてくれたのか、誰にも説明することができないんです。そしてそれがどんなに私を感動させたか、それさえ…。ますます困っちゃいますね、こんなこといわれて。でも……、(音楽フェイドアウト)話はこれで終わりです。彼女は首輪を外して部屋を出ていき、それきり電話してきませんでした…。漫画はあのとおりですからね。手紙を書いたんですよ。「きみは命令に背いた」そういうこと

疲労感のある音楽。例えば
"HELL IS AROUND THE CORNER" by TRICKY

タテイシ　(首輪を手にとり)あの首輪見てると、あの女のことが何だかすごくよく分かる気がするんですよね。買ったのはペット屋じゃなくてたぶんデパートのペット売場でしょう。想像ですが、確信があります。賭けてもいい。昼間ですよ…

Y、ゆっくりと歩いていく

タテイシ　売場には寄らずに、エレベーターでまっすぐ屋上に向かった筈です。日が射していて、人目を避ける高校生のカップルや淋しそうな親子がたたずむ人工芝の上を抜けて、熱帯魚の水槽の前でちょっと立ち止まる…。それからイヌとネ

コのコーナーで首輪を買い、今度はエスカレーターでゆっくりと下に降りる。自分に苦笑し、呆れ、でもわずかな期待を持ち、地下鉄でこの部屋に向かう。階段をのぼる途中でバッグから首輪を出して値札を取り、自分の首につける。悲しい笑いが胸の中にこみ上げてきて、一瞬ノックをするのをやめる。そして中からドアを開ける俺がいる。いらっしゃい、よく来たね…

Y、タテイシを見つめる

タテイシ　その首輪なに

Y、床に座る

タテイシ　ハハハ、イヌみたいだね、今お湯湧かしてたんだ、紅茶でいいよね。

Y、ゆっくりと床に這いつくばる

タテイシ　…ねえ、床きたないよ…。

Y、タテイシに近寄る

タテイシ　…伏せ。お手。お座り。おお。

タテイシ、笑う
Yはタテイシを見つめている

タテイシ　ねえ、漫画読んだよ。本屋で読むの恥ずかしかったけどさ、いいねアレ。あんなの初めて読んだ。単行本出ないの？

Y、依然としてイヌをやっている

タテイシ　お茶あげないぞ

タテイシ、お茶をいれに行こうとしてすぐに振り向く

タテイシ　……あの漫画に俺のこと描けよ

音楽高鳴る
Y、静かに首輪を取って出ていく

音楽消える

タテイシ　どうですか、沢田さん…

サワダ　……

タテイシ　わらっちゃいますかね

サワダ　……

タテイシ　何とかいって下さいよ、あなたの番なんだから

サワダ　…麻生先生に話したら、きっと

タテイシ　麻生先生ですか…

サワダ　……

タテイシ　なんで麻生先生なんですか。俺は、あなたに話してたのに…

サワダ　……

タテイシ、サワダのビールを手にとる
そしてそれを振りはじめる。
だんだん激しくなる
冷静な音楽
例えば "BLUR" by PETER SCHERER
タテイシ、ビールを開ける。噴出するビール。
タテイシ、びしょ濡れになりながらビールを飲む。
動けないサワダ。
暗転

scene 10.0　　カワモトの部屋

リツコ、タテイシをにらみつけている
イスにカワモト

タテイシ　いいたいことそれだけ？
リツコ　それだけってあんたね
タテイシ　だって、ああでもいうしかないじゃない。何で抱き合ってたの
リツコ　抱き合ってないよ、この人が
カワモト　そう、俺が…

間

タテイシ　いいよもう。それでどうする気？
カワモト　え？
タテイシ　さっきはちょっとイヤミで悪かったけどさ、これから話すことってあるかな
リツコ　……
タテイシ　二人が抱き合ってるの見たらさ、もう意味がないような気がしたんだよ
リツコ　抱き合ってたわけじゃない
タテイシ　いや、それはいいんだけど
リツコ　あたしには何もいうことがないの？
タテイシ　……
リツコ　どうでもいいけど、こっち向いて話してよ

間

タテイシ　お元気でしたか
リツコ　何それ
タテイシ　俺はずっと利都子のこと考えてた
リツコ　うそばっかり
タテイシ　……嘘です
カワモト　おい！
タテイシ　でもときどき考えてた
リツコ　だから？

間

タテイシ　もうだめだー
カワモト　立石ー！

タテイシ　バカみたいでしょう
リツコ　バカみたいね
タテイシ　このバカみたいな夜をくぐり抜けないと朝がこないなんてなあ
カワモト　真面目にやれよ
タテイシ　何でこんなにオニギリあるの
カワモト　あ
タテイシ　食べても大丈夫？
カワモト　……
タテイシ　違うね
カワモト　？
タテイシ　オニギリ食べてちゃ始まらない
カワモト　おまえ、酒のんでる？
タテイシ　ひと口だけね、それも吐いてきた
カワモト　何やってんだ
タテイシ　いいんだよ、話を元に戻そう？
リツコ　うん
タテイシ　俺のこと好きか？
リツコ　そんなわけないでしょう
タテイシ　おお
リツコ　まさか
タテイシ　なるほどね…。話が簡単になった。（カワモトに）夜明けは近いよ
リツコ　何いってんの
タテイシ　折角つきあってくれたのに悪かったね
カワモト　……
リツコ　まだあんたの話きいてない

間

タテイシ　どうしようか
リツコ　考えていることを話してよ。どうしてそんな平気なの
タテイシ　平気だと思う？
リツコ　……

タテイシ　冗談じゃないぞ
リツコ　何よ
タテイシ　利都子はまだ俺をしらない
リツコ　…しってたらどうだっていうの
タテイシ　最終的にはしった方がいいと思うんだ。自分がどんな男と暮らしてたのか。だから俺はここに、いる
リツコ　……
カワモト　外そうか
タテイシ　え
カワモト　しばらく外に出てようか
リツコ　……
タテイシ　いや、いいよ気にしないで
カワモト　…んー（リツコの方を見る）
タテイシ　降ってるよ、外
カワモト　……そう、か

間

リツコ　……川本くん、小説書いたのよ
タテイシ　！
カワモト　まだ途中だよ
タテイシ　書いたのか
リツコ　机の上
タテイシ　ああこれ。読んでもいい
カワモト　待てよ
タテイシ　何
カワモト　利都子さんとの話が先だ
タテイシ　ああ、そりゃそうだけど
カワモト　お前に読ませるかどうかはそのあと決める
タテイシ　…わかったよ

タテイシ、小説を机に戻す

タテイシ　この夜と川本の小説と、どっちが面白いか勝負だね…。陳腐な分この夜の方が不利か。雨なんか降ってるしね…。（リツコに）ねえ、ラブホテルに棲んで

たネコの話しってる？

カワモト　（タテイシを見る）……

タテイシ　ネコ飼ってた支配人が死んでね、次のオーナーがそのネコを客室に追いやってネコのいる客室を作ってたの。面白いでしょう。口コミで凄い人気だったんだよ

リツコ　それが何

タテイシ　たぶんこういう夜だよ、殺されたの。…川本？

カワモト、ナンデモナイといいたげな様子

タテイシ　何かわるいことといった？

リツコ　……それでそのホテル行ったのね？

タテイシ　…ネコはもういなかった

リツコ　どっかの女と寝てたことをどうこうっていうよりね、そういう話を愉しんでるあなたが信じられない

タテイシ　（タメイキ）

リツコ　あなたが出ていってね、ずっと考えてたな。あなたをどうするか

タテイシ　ああ

リツコ　あたしのことどう考えてた？

タテイシ　…元気でいるといいなと思ったよ

リツコ　それから？

タテイシ　それから…、俺のことをきちんと憎んでいるだろうかって、考えてた

リツコ　どう思う？

タテイシ　今は、憎んでるよね

リツコ　バカにしてる

タテイシ　そうか

リツコ　あの女の人とは？　どうしてるの？

タテイシ　もう会ってない

リツコ　なんで

タテイシ　さあ

リツコ　もう終わったってこと？

タテイシ　たぶん、ね

リツコ　どういう気持ち？

タテイシ　…宙吊りかな。終わりも始めもなくて

リツコ　それはあなたがバカだからよ
タテイシ　うん
リツコ　それはあなたが凄くバカだからよ
タテイシ　……
リツコ　それはあなたが徹底的にバカだからよ。あたしほんとに迷惑。

「果て」の音楽
例えば"last"by o yuki conjugate

リツコ　あたしとやり直す気はないのね？
タテイシ　何を？
リツコ　何をとかじゃないでしょ
タテイシ　今、やり直してるんだよ…、ある意味で
リツコ　え？
タテイシ　三角定規の二番目の角ってさ
リツコ　変な例えやめて
タテイシ　……三角定規の
リツコ　やめてってば。もう駄目なの。あなたのそういうの
タテイシ　……
リツコ　普通にいって
タテイシ　…信じられないかもしれないけど、俺は君ともう一度向き合うためにきた
リツコ　……
タテイシ　だからそれだけハッキリしたリツコを見ると、うれしいよ。前はそうじゃなかったろ
リツコ　しらない
タテイシ　前はそうじゃなかったよ。俺にきらわれないことばっかり考えてたよね
リツコ　そんなことないよ…！
タテイシ　今の利都子のほうが、輪郭がシャープな気がする
リツコ　全然うれしくない
タテイシ　……
リツコ　向き合うとかどうとかじゃなくて、うれしいこといってほしいだけなの。いけない？
タテイシ　……

リツコ　ひとりにされればシャープにもなるよ。あなたがいたときよりずっと正気になったと思う。ひとりでご飯作ってテーブルについて、お茶をいれて…。そういうのがものすごく楽でびっくりした。…もうどうでもいい、こんな話

タテイシ　よくないよ

リツコ　…（首を振る）

タテイシ　話してよ

リツコ　あなたと喋ってると…、空気に喋ってるみたいでさ、やりきれない…

タテイシ　ちゃんときいてるよ

リツコ　あたしの気持ちは全く届いてない

タテイシ　そんなことないさ、話してくれれば俺は

リツコ　話せないよ…

間

リツコ　あたしがあんたに何をしたいのか、わからないから…。別れられない理由はほんとはどこにもないってわかってるけど…。あなたを傷つけたいあたしがいるのもわかってきたけど…。

カワモト、そろそろと部屋を出ようとするが気づかれる

タテイシ　……

カワモト　トイレ

カワモト、出ていく

二人はしばらく沈黙する

タテイシ、リツコに近づき、髪に手を伸ばす

リツコ　さわらないで

タテイシ、かまわず髪を撫でる

リツコ　何なの

タテイシ　話せないときは、黙っててい

リツコ　は？

タテイシ　黙ってていいよ…

リツコ、何かいおうとするが結局いえない

リツコ、ふとタテイシの手をとめる

リツコ　あの女のことがあたしにばれたのって、わざとなんでしょう？

タテイシ、また手を伸ばすがとめられる

リツコ　どうしてあたしにばれるようなことしたの？

タテイシ　……

リツコ　しってほしかったんでしょう

タテイシ　わかってんじゃない

リツコ　どうして

タテイシ　耐えられなかったんだと思う

リツコ　あたしに？

タテイシ　んんん、別の女と寝てることを君に隠してるのが

リツコ　……

タテイシ　その気なら何年でもごまかせたと思うんだ、普通そうするよね。でも俺は、耐えられなかったな。怖かった。うちに戻ってくると君がお帰りっていってくれるけどほんとはみんなしってるんじゃないかって思っちゃっさ。馬鹿げてるけど俺はそれでいつも逃げ場のない思いを抱いて、君の髪を撫でてた。

タテイシ、ふたたびリツコの髪を撫でる

タテイシ　手のひらは君がそこにいることを一番確かなやりかたで伝えてくれて、俺を救ってくれる

リツコ、手を振り払おうとしてやめる

タテイシ　君があの女のことをしったとき、俺はホッとしたのね。救われたような気持ちになった。もうおびえなくてもよくて、もう嘘をつかなくてもいいんだって思った。君をしあわせにできないことをうけいれていいんだって思った。それで…。

カワモト、戻ってくるが入れない

タテイシ　カワモト…？

カワモト　ん

タテイシ　小説、仕上げてくれない…

カワモト　何で…

タテイシ　書いてくれよ、朝が来る前にさ

カワモト　……もう、朝だよ

優しい音楽
例えば "Born To Be Adored" by momus

タテイシ　そうか…

カワモト　できたとこまで、読んでやるよ…

カワモト、小説を読む

カワモト　「見たこともない、信じられないような遠い朝を待っている私の隣で、あの人は口のはしからよだれを垂らしながら、夢を見ている。そこに私はいない。あの人は夢の中で誰か私によく似たひとを抱いている。私は目を閉じる。鳥の鳴く声がきこえてくる。あの人のからだのぬくもりは私の皮膚を通り過ぎてど

こにもない場所であの人に抱かれている誰でもない人へ伝わっていく。私はあの人を起こさないように笑う。笑っているうちは死ぬことができない。あの人が目を覚ます前に、私の命がなくなっていますようにと私は思う。冷たくなった私のからだには、まだ幾らかあの人の匂いが残っているだろう。」

scene 10.1

サワダ　待ちました…

カンダ　待ちました

サワダ　待ちましたか

カンダ　もうこないかと思いました

サワダ　麻生先生のところにいたんです。伝言があります

カンダ　はい…

サワダ　「あきらめないでどんどん描いてもっともっとうまくなってね」

カンダ　うそばっかり。

サワダ　わかりました…？

カンダ　わかりました。

サワダ　原稿、お返しします

カンダ　要りませんから、もう捨ててください。

サワダ　はい

カンダ　ご迷惑をおかけしました。

サワダ　いいえ…。実は、僕もこれで仕事やめることにしました。

カンダ　そうですか。

サワダ　もうちょっと、何でもない仕事をします。

カンダ　それもうそですね…

サワダ　さあ、どっちでしょう。

カンダ　…いろいろありがとうございました

サワダ　じゃあ、お元気で。

カンダ　最後に…

サワダ　はい

カンダ　最後だけ本当のこと教えてください。麻生先生は私のことなんて言ってましたか…？

サワダ　……

カンダ　大丈夫です、いってください。

サワダ　死んじゃえばいいのにって…。そういう人なんです…

カンダ　……

サワダ、カンダの肩を抱く

サワダ　（笑う）大丈夫か！

カンダ　（うなずく）

サワダ　しっかりしろ！

カンダ　（必死にうなずく）

サワダ　死ぬなよ！

カンダ　（うなずく）

サワダ　ホントに死ぬなよ！

カンダ　（うなずく）

サワダ　指切りだ！　指切った！　約束だからな！

カンダ　（うなずく）

サワダ　（四つん這いになる）カンダさん、馬！

カンダ　えっ…？

サワダ　カンダさん、馬！　ほら！　乗れよ！　馬！　早く！

カンダ　（笑う）

サワダ　カンダさーん！

カンダ、笑いつづける
音楽、大音量に

アソウ、あらわれ、机に向かう
音楽、ヴォリュームダウン

scene 10.2

カワモト　「規則正しく鼓動するあなたの心臓のほんの数十センチ先で、私は考えつづけている。私があなたをころし、あなたが私の前からいなくなる朝のことを。もう雨はやんでいるだろう。ついたままのテレビからは新しい清涼飲料水のCMが繰り返し繰り返し流れるだろう。」

リツコ、タテイシにさわろうとする
タテイシ、リツコの腕をとる
自分の腕時計を外してリツコの腕時計と絡め、手首を拘束していく

カワモト　「あなたのカラダから流れる筈の赤い血を私は想像することができない。私のナイフの先があなたの胸の中へなめらかに消えていくところでいつも私のスイッチは切れてしまう。私は目を開ける。あなたはそこにいる。私はここにいない。」

タテイシ、リツコにキスをする
「夜明けの音楽」例えば
"Youpi(Kid Loco Space Spaghetti Remix)" by Cornu

タテイシ、リツコを残して去っていく

カワモトをやっていた俳優、舞台にゆっくりと一礼して暗転

『黎明』終

上演記録

２０００年３月１日〜５日　下北沢ザ・スズナリ

タテイシ　山本尚明
リツコ　町田カナ
カワモト　鶴牧万里

サワダ　久保田芳之
アソウ　高木珠里
カンダ　野俣幸恵(青島レコード)

Ｙ　矢下瞳子

作・演出　夏井孝裕

舞台監督　小野八着(Jet Stream)
舞監助手　松嵜耕治(至福団)
照明　髙山隆夫(Bright)
音響　夏井孝裕　吉村明子
衣裳　矢野洋子
宣伝美術　篠永洋(taketomo)
宣伝写真　御嶽亜由美
演出助手　恐田尚幸
制作　萩原敦子
製作　タービン

２００２年２月２６日〜３月３日　こまばアゴラ劇場

タテイシ　久保田芳之
リツコ　藤井直子（劇団前方公演墳）
カワモト　成川知也

サワダ　奥瀬繁（幻の劇団見て見て）
アソウ　篠原麻美
カンダ　杉山冴子

Ｙ　町田カナ

作・演出　夏井孝裕

舞台監督　小野八着(Jet Stream)
照明　髙山隆夫(Bright)
音響　夏井孝裕
宣伝美術　篠永洋(taketomo)
制作　秋本独人
製作　reset-N
後援　ブリティッシュ・カウンシル
こまばアゴラ　冬のサミット２００１

２００８年３月５日〜９日　相鉄本多劇場
横浜ＳＡＡＣ再演支援プロジェクト

タテイシ　原田紀行
リツコ　山前麻緒（劇団夜想会）
カワモト　平家和典

アソウ　長谷川有希子
サワダ　綾田將一
カンダ　丸子聡美

Ｙ　足立由夏（InnocentSphere）

作・演出　夏井孝裕

グランドデザイン　massigla lab.
舞台監督　藤本志穂（うなぎ計画）
音響　荒木まや
宣伝写真　quite design productions.
web　笹香和
制作協力　beyond・藤田晶久(pulette-bullet)

主催　reset-N
共催　横浜ＳＡＡＣ・横浜市市民活力推進局

※実際の上演とは異なる場合があります。

※本作品の使用には営利・非営利を問わず許可が必要です。

※Susan Meehanによる英訳版『黎明』については一般発売をしていません。詳しくはお問い合せ下さい。

152-0032 東京都目黒区平町 1-2-24 The Terrace102
phone / fax 03.6310.4827
massigla@gmail.com

reset-N